

令和6年度 産業建設常任委員会行政視察報告書

1 視察日

令和6年8月5日（月）、6日（火）

2 視察先及び視察事項

富山地区広域圏クリーンセンター 富山県中新川郡立山町末三賀 103 番地
ごみ処理の広域化について

富山県立南砺平高等学校 富山県南砺市大島 1203 番地
市内伝統芸能の若年層への普及について

富山県南砺市役所 富山県南砺市荒木 1550 番地
環境に優しい農業振興について

3 参加者

委員長 原 喜与美
副委員長 野田 かつひこ
委員 田代 まさよ 山田 智志 池田 源則 蓑島 正人
議長 森藤 文男
議会事務局 議会総務課 主事 小森 涼
計8人

4 視察内容

(1) 富山地区広域圏クリーンセンター ごみ処理の広域化について

説明者 富山地区広域圏事務組合事務局 次長 田口 衛
富山地区広域圏クリーンセンター 所長 駒見 潤
富山地区広域圏クリーンセンター 福村 紀之

対 応 富山地区広域圏事務組合事務局 局長 山森 豊

※ 参考 富山地区広域圏事務組合 設立 昭和47年7月
構成市町村 富山市、滑川市、立山町、上市町、舟橋村

◆富山地区広域圏事務組合の概要

富山地区広域圏事務組合は、富山市、滑川市、立山町、上市町及び舟橋村の2市2町1村で構成されている。本圏域は、富山県の中央部に位置し、北は日本海の富山湾に面し、南は中部山岳国立公園の北アルプス連峰に囲まれ、長野県・岐阜県と接している。東は早月川を境に新川地区広域圏に接し、西は射水市及び砺波地区広域圏に接しており、総面積は 1,845.29km²で富山県の総面積 4,247.54km² の 43.44%を占める。

本組合はクリーンセンター以外にも、リサイクルセンター、衛生センター、常願寺ハイスポーツ公園を管理運営している。リサイクルセンターでは、富山地区広域圏内から排出される燃やせないごみやビン缶等の資源ごみから資源等を回収しており、リサイクルプラザでは、家庭で不要となったもので、十分使用可能な製品を若干のリフォームをし、展示・販売している。衛生センターでは、排出されるし尿・浄化槽汚泥の処理を、エコロセンターでは、捕獲された有害鳥獣の処理を行っている。常

願寺ハイツには、温水プールを拠点とした、トレーニングジムやエクササイズ用スタジオを設置している。スポーツレクリエーション施設として、経験豊富なインストラクターの指導のもと、圏域住民の健康増進を支援している。

また、富山地区広域圏事務組合には市町村議会と同様に、一部事務組合の仕事が適正に行われているかをチェックするための機関として組合議会が設置されている。組合議会には、定期的に行われる定例会（毎年2月、10月）と、必要に応じて開かれる臨時会があり、予算や決算、条例の制定・改廃等の案件について協議されている。組合議会議員は、組合の構成市町村である富山市・滑川市・立山町・上市町・舟橋村の議員の中から選任された17名の議員で構成されている。

◆富山地区広域圏クリーンセンターの概要

富山地区広域圏クリーンセンターは平成11年6月29日に着工、平成15年3月19日に竣工しており、敷地面積は51,973㎡を有している。炉の形式は全連続炉であり、24時間当たり270トンのごみ処理ができる炉が3基あるので、全て稼働すると24時間当たり810トンのごみ処理能力を持っている。令和5年度のごみの受入れ実績は富山市が約74,300トン、滑川市が6,400トン、立山町が5,100トン、上市町が4,000トン、舟橋村が610トンとなっている。

◆広域圏クリーンセンターとしての特徴について

効率的な発電や化学燃料の消費を抑制でき、環境負担が減る。発電をした分で施設内の電気を全て賄っており、生み出した電気から使用して余った分を売電している。売電収入は10億円ほどあり、修繕費や維持管理費等を差し引くと赤字にはなってしまうが、各市町村からの負担金を含めると黒字経営になっている。

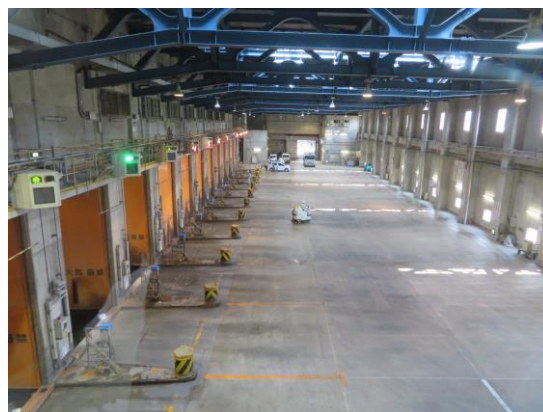


富山地区広域圏クリーンセンターにおける視察

また、ごみ処理の集約化によって、一定のごみ量が確保され、ごみ焼却処理の安定稼働及び効

率的な熱回収が可能となる。また、広大な土地を持っているため、敷地の一部を貸し出し、ソーラーパネルを設置するなど、脱炭素への取組も積極的に実施している。

ごみの収集は各市町村で行っており、一番遠い場所でクリーンセンターから30kmほどの距離となるため、移動距離が長くなることで収集運搬経費が増加する。また、富山地区広域圏クリーンセンター1か所に全地域のごみが集まるため、仮に災害や予期せぬトラブルに見舞われ、全焼却炉が稼働できなくなった場合、県内の他地域のクリーンセンターに受入れを要請しても限度があるので断られる可能性が高い。そのような事態にも対応できる方法として、広域圏内で2か所焼却施設を持ち、ごみを分散させ、災害が起きたとしてもどちらかを稼働すること可能であるが、富山地区広域圏クリーンセンターは1か所のみであるため、他県にごみの受入れを要請することになってしまう。そのため、いかに停止させず、富山地区広域圏クリーンセンターを稼働し続けるかが重要になる。



可燃ごみの搬入口の様子

(2) 南砺平高等学校 市内伝統芸能の若年層への普及について

説明者 富山県立南砺平高等学校 校長 北野 幹昌
富山県立南砺平高等学校 教頭 永井 孝昌
富山県立南砺平高等学校 郷土芸能部 顧問 谷崎 孝志

対 応 同上

※ 参考 南砺平高等学校 生徒数 64 名 郷土芸能部員数 35 名 (R5 年度現在)

◆南砺平高等学校について

南砺平高等学校は「特色ある学校づくり」を目指して、以下のような活動を積極的に行っている。

◎コミュニティ・スクール

令和4年度からコミュニティ・スクールを導入し、地域とともにある学校を目指している。地域学校協働活動を多く取り入れ、体験からの学びを重視する。

◎特色ある科目

「総合的な探求の時間」として『五箇山探求』を3年間継続して履修する。五箇山の伝統文化や自然を教材として調査・研究を探求的に進め、郷土を愛する心などを育んでいる。

◆郷土芸能部の概要・視察事項

郷土芸能部には、南砺平高等学校の全生徒の約半数が所属しており、部員の8割以上が五箇山地域外から来た生徒で構成されている。南砺平高等学校では兼部制を取り入れており、郷土芸能部だけに所属している生徒とスキー部やバレー部など、別の部活動と兼部している生徒がいる。

郷土芸能部の目標は「日本一」であり、全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞し、国立劇場の舞台を踏むというものである。その目標に向けて、大会の2か月前から「こきりこ館」という施設を借りて、夜練習を行い、地元の民謡保存会の指導者の方々の熱心な指導を受ける。

郷土芸能部は、五箇山地域に伝わる民謡を学び伝承することを目的に、平成元年に設立した。挨拶や礼儀、協調性を大切にし、福祉施設の訪問、地域のお祭りやイベントに出演して五箇山民謡の伝承と普及に取り組んでいる。

岩手県で地震災害からの復興に向けた郷土芸能フェスティバルや広島県で行われている「かぐら甲子園」、オリンピックの記念公演に参加するなど全国各地でイベントに参加している。その中でマスコミにも多く取り上げられたため、全国的にも南砺平高等学校の郷土芸能部の知名度はかなり高くなっている。

また、地元のイベントに出演も多くしており、特にむぎや祭りや城端むぎや祭りなどには毎年出ている。そこでは会場が地元の方や観光客で満員になるほどの集客力がある。若い世代の方々が民謡を行っていることに対して、魅力を感じる方が大勢いることが表れている。そのような地域のイベントを見ることで影響を受け、郷土芸能部目当てで南砺平高等学校に入学する生徒も全体の1～2割ほどいる。



南砺平高等学校における視察

卒業後、地元へ帰ってくる方は全体のから見ると若干名ほどになるが、帰ってきた方は民謡保存会に入って、郷土芸能部の指導をしたり、保存会として地元のイベントで民謡を披露したりするなど、郷土芸能部から離れた後も各々活躍している。

(3) 南砺市役所 環境に優しい農業振興について

説明者 南砺市 ブランド戦略部 農政課長 中島 吉範
南砺市 農政課 農政係長・主幹 谷口 繁慶
南砺市 農政課 農政係 主査 山口 泰弘

対 応 南砺市議会 副議長 石川 弘
南砺市議会事務局 主幹・局長補佐 松本 孝史

※ 参考 南砺市人口 46,297 人（2024 年 8 月 31 日）、面積 668.6 km²、議員数 18 名

◆南砺市の概要

南砺市は、人口は 2024 年 8 月末現在で 46,297 人、面積は 668.64 km²で、そのうち約 8 割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれている。また、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成している。また、市南部の山間部に位置する五箇山地方には、世界遺産に登録されている合掌造り集落があり、「こきりこ節」や「麦屋節」に代表される民謡の発祥など、独自の風土に根ざした固有の文化が育まれてきた。



南砺市役所における視察

◆南砺市の農業について

南砺市の農業は、耕地面積 7,260 ヘクタール（田耕地面積 6,900 ヘクタール、畑耕地面積 360 ヘクタール）で、豊富な水に育まれた良質な米の生産を柱とし、干柿などの特産品づくりに取り組んでいる。地域において個別経営、法人経営、集落営農組織、農業公社など効率的かつ安定的な農業経営を行う担い手を明確にし、これら担い手が継続して地域農業の相当部分を担えるよう、経営体質の強化やその経営を支える人材の確保に努めている。併せて、農地基盤整備を推進するとともに、市場性の高い農畜産物の生産・安定供給と、地産地消を基本とした流通・販売体制の構築に努めている。

有機農業で栽培したお米の収量は慣行農法の約 0.8 倍であり、収量はある程度確保できている。担い手の方で有機農業に取り組み方もみえ、収量をあげている。現在は農家と事業者との間に市が入っているが、販売ルートを確認しているが、少しずつ地元主体に切り替えていくことで、有機農業の事業の自走を目指している。

農業就業人口及び基幹的農業従事者は、少子高齢化の進行により全国的に減少傾向にあるが、法人化済みの農業経営体や認定農業者、認定新規就農者は増加している。南砺市では、就農マッチングツアーやオンラインでの就農相談などを適宜開催し、新たな担い手の経営基盤の強化を目指している。

就農マッチングツアーについて、事業内容としては農業現場における高齢化及び労働力不足の解決策の1つとして、南砺市で就農を考えている方と市内の農業経営体との縁を結ぶ手伝いをし、南砺市で収納してもらえるような「きっかけの場」を作ることとしている。令和2年度から現在まで実施しており、令和5年度は参加者が17名（内男性10名、女性7名）であり、就農実績は3名であった。

雇用農業の促進を主目的とした事業であるが、これまでの参加者の中には独立就農を希望する方も多くいたことから、令和4年度より独立就農を行っている先輩移住者との交流会も企画されている。

新規就農掘り起こしの呼びかけは、農業を専門とする学科がある県内高校や、県が運営している農業にチャレンジがしたい方が1年間農業について学ぶ富山農業未来カレッジなど、元々農業に興味がある方に案内をすることで新規就農者の増加を図っている。

5 所感

○ 富山地区広域圏クリーンセンター

県内の50%ほどのエリアを占める広域事務組合で地域の廃棄物の収集・処理を行っており、大規模な施設で作業を進められている。

廃棄物の内容によって、いくつかの施設が分けられており、広域的な組織だからこそできる運営形態だと感じた。郡上市における人口減少のことを考えると富山地区広域圏クリーンセンターのような広域的な取り組みが必要だと強く感じた。

○ 南砺平高等学校

山間の小規模な学校であるが、その教育方針は地域に伝わる郷土芸能の探求的な学習を重視し、さらに部活動においても積極的に取り組む姿勢が見られる。この結果、多くの生徒が郷土芸能を習得し、充実した学校生活を送っている。現在では、全国的にその名が知られる素晴らしい学校となり、生徒たちは自信を持って民謡を練習し、表現する姿が印象的であった。

五箇山民謡には、若者が他の若者の活躍を見て興味を持ち、次の世代へと受け継がれるという素晴らしいサイクルが形成されている。このような流れは、郡上市でも同様に伝統芸能に対する若者の興味を引き出す上で非常に重要である。郡上市として、様々な形で若者の活躍をPRすることがさらに普及・促進につながり、結果的に地域文化の振興にも寄与すると強く感じる。

○ 富山県南砺市

本市は行政主体で有機農業を行う農家の育成に力を入れている。有機農業で生産された農産物はブランド品として有利販売できるように生産から販売までを行政が行っていることに驚いた。この先、有機農業はさらにメジャーになる中で、郡上市での有機農業の推進やそれを取り入れる新規就農者の獲得を目指すために、行政が積極的に関わることで郡上市における有機農業の基盤を確立することを期待する。今後、有機農業はますます広がりを見せることが予想される中で、郡上市における有機農業の推進がより重要となる。そのため、行政が積極的に関与することが求められる。有機農業の基盤を確立し、地域の農業をさらに活性化させることが期待される。地域資源を最大限に活用しつつ、持続可能な社会を築くための取り組みとして、今後の展開に大いに期待する。

6 視察経費

視察費	308,080 円（随員職員1名分旅費を含む）
一人平均	51,347 円（議長1名、委員6名、事務局1名）

以上、視察研修の主な結果について報告いたします。

令和6年9月27日

郡上市議会議長 森藤 文男 様

郡上市議会産業建設常任委員会
委員長 原 喜与美